

「ボッチャ競技交流会」大会申し合せ事項

1. 競技規則

本大会は、「日本ボッチャ協会競技規則 2017-2020 V. 2」及び大会申し合せ事項によって実施する。

2. 競技方法

- ・リーグ団体戦で実施する。
- ・クラス区分は行わない。
- ・1チーム3～5人とする。
- ・エンド途中の選手交代は認めず、1エンドと2エンドの間のみ可とする。

3. 使用コート・ゲーム数・時間

- ・1ゲーム：2エンド。
- ・持ち時間：制限は設けないがスムーズな試合進行を心掛ける。
- ・投球練習：各ゲーム1エンド目の開始前に1人2球が投球でき、2エンド目からは、練習投球なし。
- ・ボールの色は、代表者同士のジャンケンによって決める。

4. タイブレイク（同点時の延長戦）

- ・タイブレイクは、1エンドは実施せず、各チームの代表者が、中央のジャックボールを目標に1球ずつ投球し、より近づけられたら方が勝利とする。
- ・代表者の投球順は、ジャンケンによって決定する。

5. ボールの投球について

- ・ボール投球時、スローイングボックスラインに触れている場合、審判から口頭注意する。スローイングボックスラインを踏んだまま投球したボールは無効とし、審判によって取り除き、ペナルティボールを伴う違反行為として取り扱うものとする。
- ・ボールは投球する選手のみが触れることができるものとし、自身のチームの投球順であっても、投球する選手以外は、ボールに触れることは認められない。投球者以外がボールに触れていた場合、審判から口頭注意する。
- ・同時に複数のボールが投球された場合、そのボールは審判によって選手の元に戻し、投球をやり直すものとする。

6. コートから出たボール

- ・全てのボールは、ラインに触れたりラインを超えたりした場合は、コート外に出たものとみなし、審判によって取り除くものとする。

7. 補助具等の使用について

- ・ 補助具の使用、補助員による補助を必要とする場合は、窓口で申し込みの際にお伝え下さい。
- ・ 投球時にランプを使用する場合、ランプの先がスローインボックスラインを越えてはならない。
- ・ 補助員は、スローインボックス内から出て、コート内を見回ることは出来ない。

8. コミュニケーションについて

- ・ チームメンバー内でのコミュニケーション（会話）は認めるが、相手チームに対して迷惑になるような言動が見受けられた場合は、審判から口頭注意します。